

支縁コミュニケーション

開講科目名	支縁コミュニケーション	講義題目	社会的包摂における相互コミュニケーション		
単位数	2単位	授業形態	演習科目	開講言語	日本語
開講科目名(英)	Reciprocal communication in social involvement				
時間割コード	360422				
定員	10人				
担当教員	宮本 友介、西川 勝、池田 光穂				
対象所属・年次	全研究科大学院生、3年次以上の全学部生、社会人（10名程度）				
開講区分・曜日・時間	第2学期＝集中				
開講場所	現地、授業開始までにKOAN・CLEに掲示します。				
キーワード	支縁コミュニケーション、社会的包摂、遊動的ドライブ、生活知、現場力				
授業の目的・概要	社会福祉には一方的な物資の扶助（支援）だけでは解決することのできない様々な問題が含まれている。大きな課題の一つは社会的包摂のためのコミュニティ形成であり、これを「支縁」と呼ぼう。この授業では、「支縁」のためのコミュニケーションについて、いまや貧困と高齢化社会の縮図であり「福祉の」となった大阪・釜ヶ崎でのフィールドワークを通じて考える。				
学習目標	支縁コミュニケーションに関する基本的な考え方について、受講生間での議論ができる。 フィールドワークを通して得られた体験を、他者へ説明することができる。 社会保障制度など、現代社会が抱える様々な問題に対し、その解決のための具体的な方策を提案できる。 社会的包摂のための取り組みに、コミュニティ形成の重要性を意識しながら貢献ができる。				
授業計画	授業計画 第1回 オリエンテーション（前半） 「支縁」コミュニケーションについての導入。 第2回 オリエンテーション（後半） フィールドワークの準備。 第3回 フィールドワーク：事前学習 釜ヶ崎周辺の歴史と現状について現地での事前学習。 第4回 フィールドワーク：まち歩き（1） 第5回 フィールドワーク：まち歩き（2） 第6回 フィールドワーク：まち歩き（3） 第7回 フィールドワーク：まち歩き（4） あいりん総合センター（労働福祉センター；改修工事中の可能性あり）を中心とした地域のスタディツアー。 第8回 フィールドワーク：宗教系支援団体の取り組み 古くから生活困窮者の支援活動をしてきたキリスト教系団体をはじめとして、宗教系支援団体の取り組みを調査。 第9回 フィールドワーク：アートと社会的包摂 アートや表現プログラムを活用した社会的包摂の取り組みに参加し、その有用性を体感する。 第10回 フィールドワーク：現地調査（前半） 受講生が各自で発案したテーマに基づき、グループワークのための資料収集・現地調査。 第11回 フィールドワーク：現地調査（後半） 第12回 フィールドワーク：哲学の会（前半） 第13回 フィールドワーク：哲学の会（後半） 月1回開催されている「釜ヶ崎哲学の会」に参加。				

第14回 グループワーク：まとめ（前半）
第15回 グループワーク：まとめ（後半）
フィールドワークを通して得られた体験を共有するためのグループワーク。

| 授業外における学習 | フィールドワークの終了後、課題レポートを作成すること。

| 履修条件・受講条件 | 初回のオリエンテーションには必ず参加すること。

| 教科書・教材 | とくに指定しない。
必要に応じてウェブページで資料を提示する。

| 参考文献 | 原口 剛ほか（編著）／釜ヶ崎のスヌメ／洛北出版／978-4-903127-14-9
釜ヶ崎資料センター（編）／釜ヶ崎 歴史と現在／三一書房／4-380-93224-9
齊藤 俊輔／釜ヶ崎風土記／葉文館出版／4-916067-49-5
中沢 新一／大阪アースダイバー／講談社／978-4-06-217812-9
大阪市立大学都市研究プラザ／記憶と地域をつなぐアートプロジェクト／水曜社／978-4-880652-36-8

| 成績評価 | 授業への積極的な参加（60%）；グループワークへの貢献（30%）；期末レポート（10%）

| 特記事項 |

必須条件ではありませんが、授業科目「ヒューマンコミュニケーション」および「臨床コミュニケーション」も合わせて履修することを推奨します。